

埼玉、2020.02.15-16

乳がん患者の卵巣刺激においてアロマターゼインヒビターを併用することは有効か

【目的】乳がんはAYA世代女性に多く妊孕性温存治療のニーズが大きい。乳がんは性ホルモン受容体を持つタイプが多く、卵巣刺激時のエストラジオール (E2) の上昇が腫瘍増殖を促進するのではないかと危惧される。そのためエストロゲン産生を抑制する作用のあるアロマターゼインヒビター (AI) をホルモン受容体陽性乳がん患者の排卵誘発に使用することがある。当院で乳がん患者の卵巣刺激に AI を併用した排卵誘発治療の成績を検討した。

【方法】2015年から2019年10月までに妊孕性温存治療のために排卵誘発を実施した乳がん患者の年齢、AMH値、採卵決定時の血中E2値、採卵数、成熟卵子数について後方視的に調査した。排卵誘発の方法はGnRHアンタゴニスト法とし、レトロゾールを併用した群 (AI群) とレトロゾールを併用しなかったコントロール群 (C群) の成績を比較した。LHトリガーはHCGまたはGnRHを用い、主席卵胞を含む2個以上の卵胞が直径17mmに達した日に投与し、その36時間後に経膈超音波下に採卵した。統計解析はt検定を用いた。

【結果】総患者数は49例で、AI群:43例52周期でC群:6例6周期であった。平均年齢はAI群:35.4歳、C群:32.2歳でAI群が高かった ( $p=0.03$ )。平均AMH値、採卵決定時のE2値、採卵数、成熟卵子数はAI群対C群でそれぞれ3.15対3.34ng/ml ( $p=0.39$ )、503対1804pg/ml ( $p=0.02$ )、12.9対20.2個 ( $p=0.03$ )、9.9対16個 ( $p=0.02$ )であり、E2値、採卵数、成熟卵子数はAI群が小さかった。獲得卵子または成熟卵子1個当たりのE2値は45.1対85.8pg/ml ( $p=0.0002$ )と56.9対109.1pg/ml ( $p=0.005$ )であり、AI群が有意に低かった。

【考察】AIを排卵誘発に併用することにより、血中E2上昇を卵子1個当たり約半分に抑制することができた。当検討では二群間に年齢の差があり卵巣機能の差が存在していた可能性はあり、採卵個数もAIを使用しない群が多かった。AI群はホルモン感受性乳がん患者が多く含まれていたが、このような患者の特性が排卵誘発の成績に影響しているかは不明である。